HONDA
汎用製品

エンジン

GX 25・GX 35
取扱説明書



お買いあげありがとうございます。
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

e SPEC
ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

はじめに

● この取扱説明書は、お買いあげいただいたエンジンの正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用の前にこの取扱説明書を良くお読みください。

安全に関する表示について
本書では、作業者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

取扱説明書について
この取扱説明書は
● エンジンを操作するときは、必ず身近な所に置いてください。
● エンジンを貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
● 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

● なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。本書は GX25 を中心に編集しています。

e-SPEC は、Honda が「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、（社）日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合しています。

これだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

- **エンジン単体でエンジンを始動しないでください。このエンジンは作業機に搭載した状態で使用できるように作られています。**

- **エンジンを作業機などに搭載する場合は、安全性、耐久性を確保するために高度な技術が必要です。搭載する際は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。**

- **この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。また、作業機の取扱説明書も事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解ください。**

- **間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。**

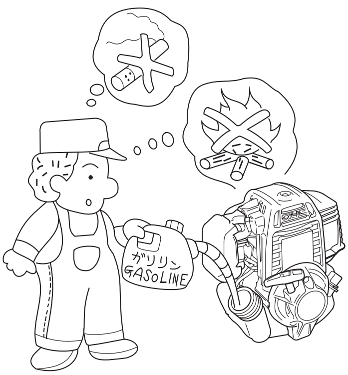
- **エンジンを始動する前に必ず「エンジンを始動する前に点検しましょう」（4 ～ 8 頁）を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。**

- **適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機の運転操作をさせないでください。また、子供には絶対にさわらせないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。**

- **カバーやラベル類、その他の部品を外してエンジンを操作しないでください。また弊社がみとめない改造または使用はしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。**

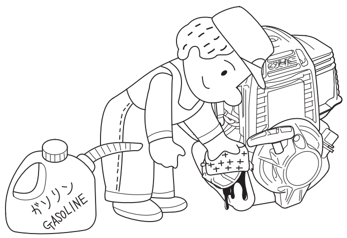
- **過労や飲酒、薬物を服用してエンジンを使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。**

- **エンジンの日常点検、整備を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理してからご使用ください。**



- **ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。**

- **燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。**



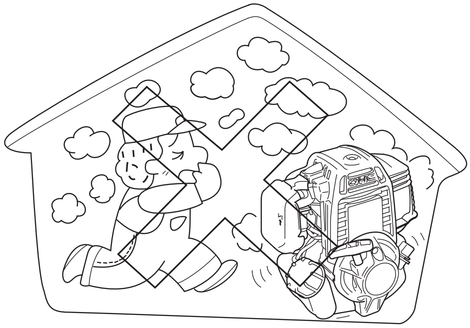
- **燃料をこぼさないように注意し、所定のレベルを超えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。**

安全にお使い
いただくために

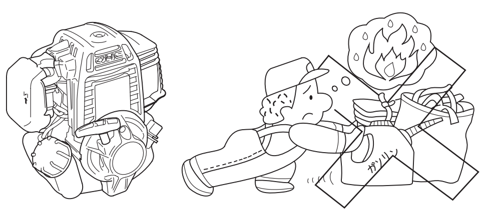
これだけはぜひ守りましょう

警告

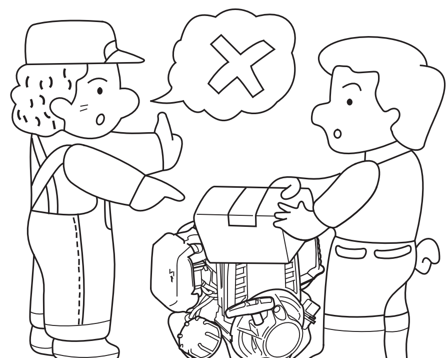
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などの換気の悪い所では使用しないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすことがあります。
- 排気ガス中には有害な成分が含まれています。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や動植物などにも十分注意してください。
- 建物や遮へい物などで風通しの悪い場所、また排気ガスがこもる場所などでも有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすことがありますので使用しないでください。



- 思わぬ転倒事故を防止するためにエンジンは水平で安定した場所に設置してください。また火災を防止するために建物およびその他の設備から 1m 以上離して設置してください。
- エンジンのまわりには、わらくず、紙くず、木くずなどの燃えやすいものや、油脂類、石油製品、火薬などの危険物を近づけないでください。火災や爆発の危険があります。



- 運転中はもちろん、使用しないときも、エンジンの上部に物を置かないでください。変形したり、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 運転中や停止直後はエンジン本体やマフラーなどに触れないでください。
熱によりやけどをするおそれがあります。
- 運転中は高電圧コードやプラグキャップに触れないでください。感電のおそれがあります。



エンジンを始動する前に点検しましょう

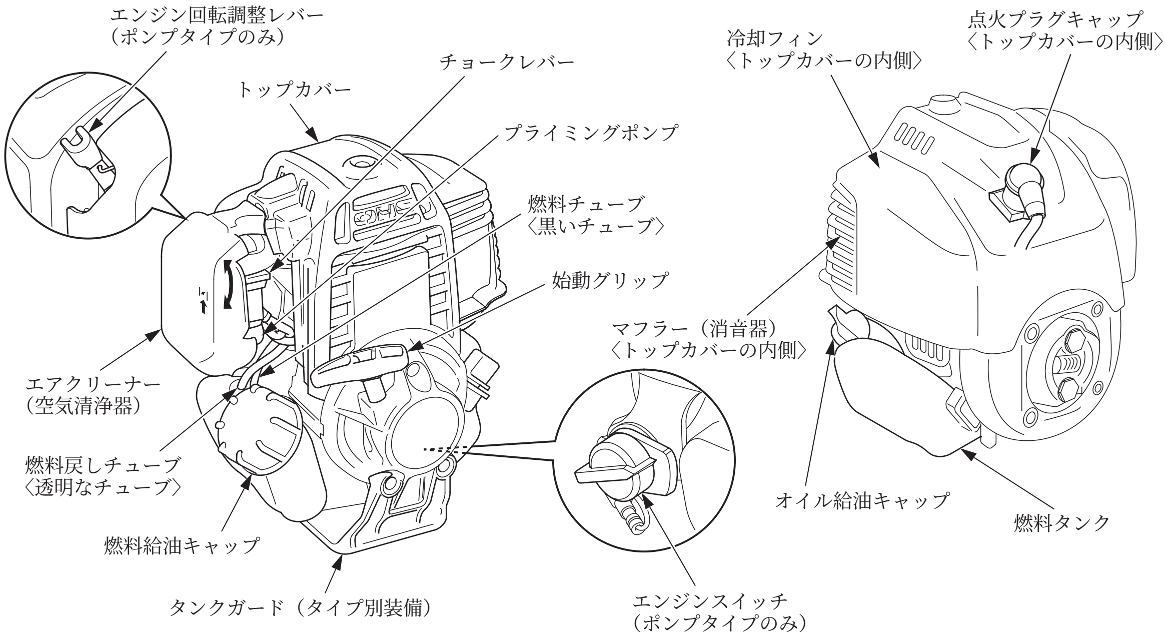
⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないようにエンジンスイッチが停止になっていることを確認してください。

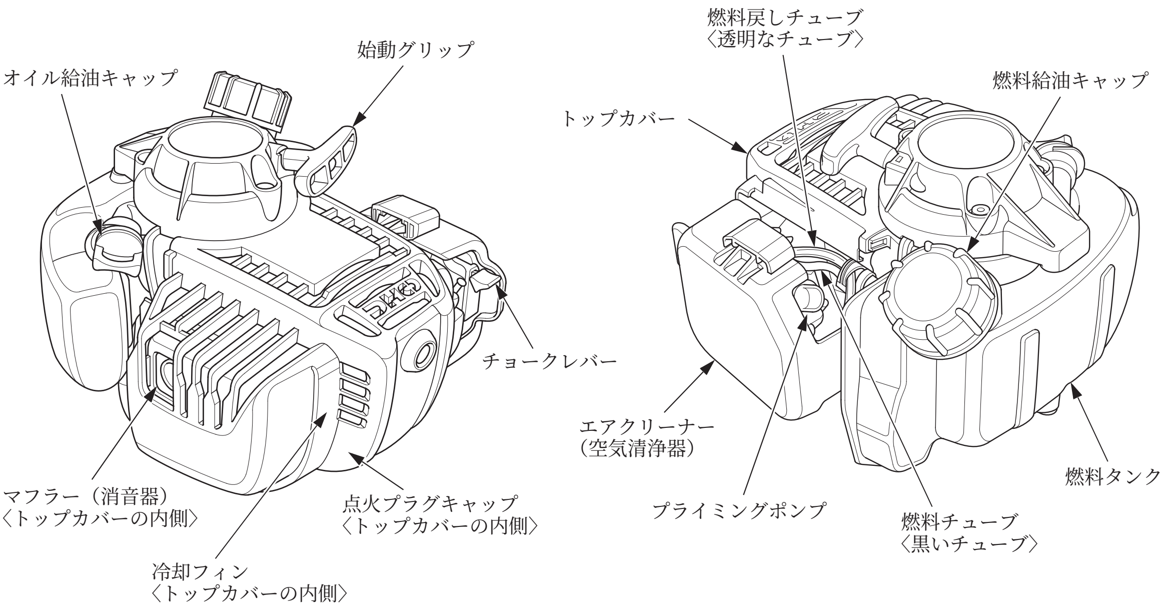
● エンジンの周りに燃料漏れ、オイル漏れがないことを確認してください。

各部の名称と点検箇所

スタンダード／ポンプタイプ：



ティラータイプ：



エンジンを始動する前に点検しましょう

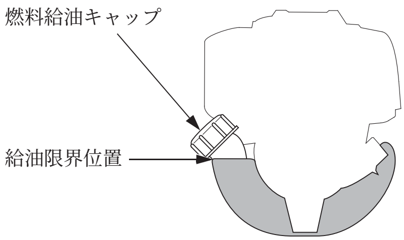
ガソリンの点検

⚠警告

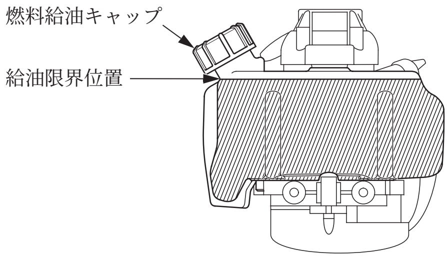
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
ガソリンを補給するときは
- **エンジンを停止してください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。**
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- **ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。**
- **ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。**

《点検》
燃料タンクの外側より液面の位置を確認し、燃料の量を点検します。少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。

スタンダード／ポンプタイプ：



ティラータイプ：



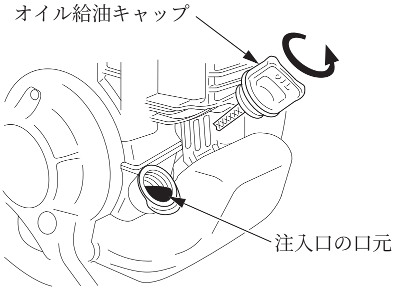
《補給》
使用燃料：無鉛レギュラーガソリン
- 燃料給油キャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部との気圧差を取除きます。
  給油キャップを外し、給油限界位置を超えないように補給します。
- 補給後、給油キャップを完全に締付けてください。また、給油キャップ取付け部より燃料漏れがないことを確認してください。

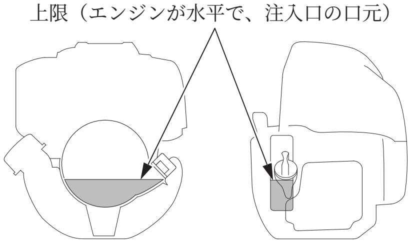
取扱いのポイント

- **ガソリンにエンジンオイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。本機に混合ガソリンを使用すると始動不良、出力低下、燃料系のつまりの原因となります。**
- **必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。**
- **軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。**

エンジンオイルの点検

エンジンを水平にし（ティラータイプは、図のように立てます。）オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。
不足している場合は、新しいオイルを口元まで補給してください。
・汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換方法は 13 頁参照）

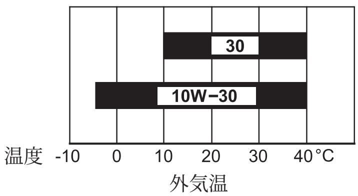




《**推奨オイル**》Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE10W-30）
またはAPI 分類 SE 級以上の SAE10W-30 オイル
をご使用ください。

《**オイル容量**》　GX25:　0.08 L
GX35:　0.10 L

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



取扱いのポイント

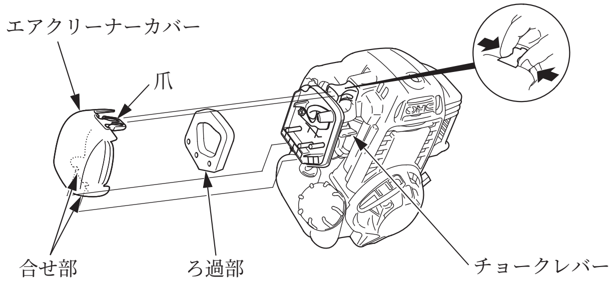
- **エンジンを連続運転する場合、10 時間運転毎にエンジンオイルの点検、補給を行ってください。**
- **エンジンオイルの補給はオイル容量が小さいため、少量に分け注入してください。**
- **オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**

エンジンを始動する前に点検しましょう

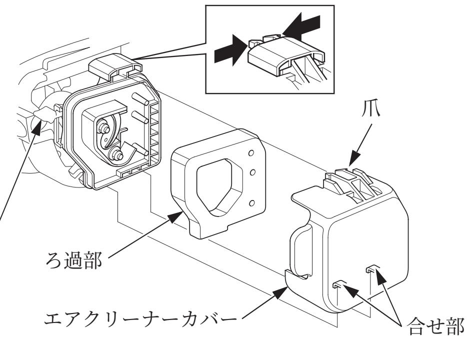
エアクリーナー（空気清浄器：ウレタンタイプ）の点検

チョークレバーを上げ、エアクリーナーカバーを外して、ろ過部（ウレタン）が汚れていないか点検します。
エアクリーナーカバーの取外しは、爪の両端をつまみ手前に倒し上部を外した後、下部の合せ部を離して行います。
汚れのひどい場合は清掃をしてください。（清掃方法は 14 頁参照）
・ろ過部（ウレタン）が汚れているとエンジン性能が低下します。

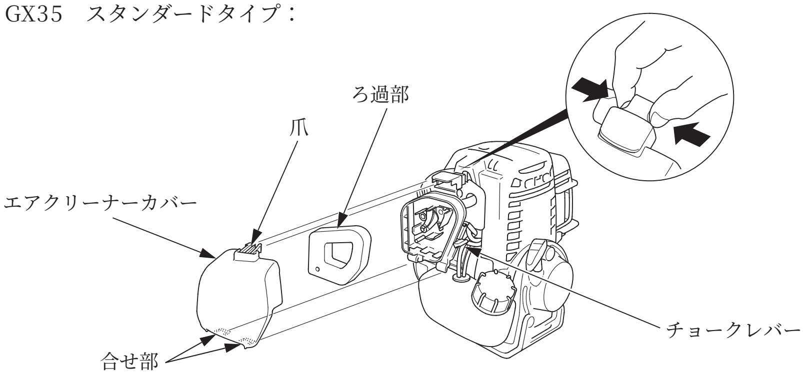
GX25　スタンダード／ポンプタイプ：



GX25　ティラータイプ：

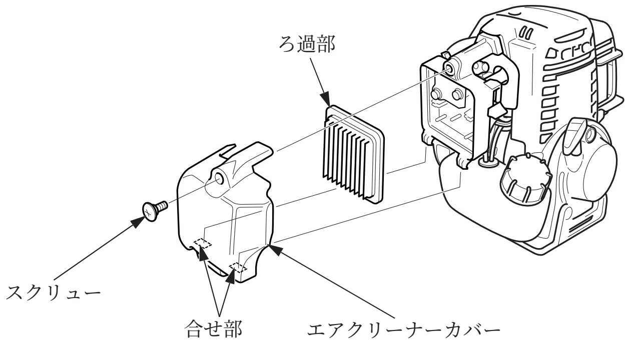


GX35　スタンダードタイプ：



エアクリーナー（空気清浄器：紙製タイプ）の点検

エアクリーナーカバーを外して、ろ過部（紙製）が汚れていないか点検します。
エアクリーナーカバーの取外しは、スクリューを外した後、下部の合せ部を離して行います。
汚れのひどい場合は清掃または交換を行ってください。（清掃方法は 16 頁参照）
・ろ過部（紙製）が汚れているとエンジン性能が低下します。



各部の締付け状態の点検

各ボルト、ナットにゆるみがないことを確認します。
ボルト、ナットにゆるみがある場合は確実に締付けてください。

エンジンのかけかた

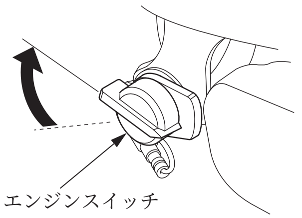
⚠警告

・排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
・トップカバーを外した状態で始動グリップを引いたり、エンジンを始動しないでください。高温部および回転部が露出するので、思わぬ事故の原因となります。

かけかた

エンジンをかける前に作業機の取扱説明書を読んでください。

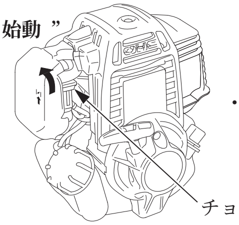
[1] エンジンスイッチ



・エンジンスイッチを“**ON**”“**運転**”など始動時の位置にします。

スタンダード／ティラータイプ：エンジンスイッチは作業機側に装備されています。

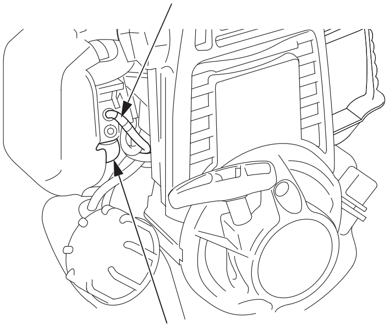
[2] チョーク



・寒いときや、エンジンが冷えているときには、チョークレバーを“**始動**”の位置にあわせます。
・エンジンが暖まっているときは操作不要です。

3

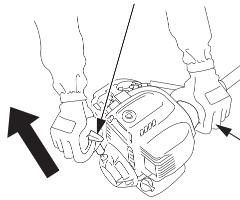
[3] プライミングポンプ



・燃料戻しチューブの内側でガソリンが移動するまで、プライミングポンプを押します。

[4] 始動グリップ

始動

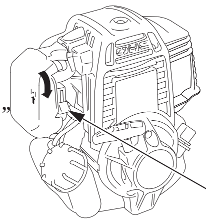


・作業機側の安全な部分をしっかり押さえ、始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。始動グリップは手を添えて静かに戻してください。

取扱いのポイント

・始動グリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
・始動グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
・運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

[5] チョーク

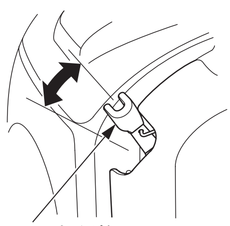


・チョークレバーを“**始動**”にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に“**運転**”の方向に戻します。

[6] 暖機運転

・2～3分間暖機運転を行ってください。

[7] エンジン回転調整レバー

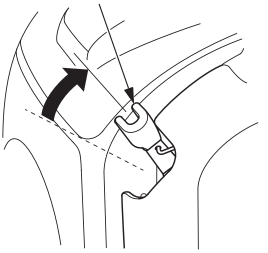


・エンジン回転調整レバーを使用する回転数に調整してください。
スタンダード／ティラータイプ：エンジン回転調整レバーは作業機側に装備されています。

エンジンのとめかた

とめかた

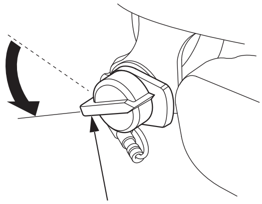
[1] **エンジン回転調整レバー**



・エンジン回転調整レバーでエンジン回転を最低速にします。

スタンダード／
ティラータイプ：
エンジン回転調整レバーは作業機側に装備されています。

[2] **エンジンスイッチ**



・エンジンスイッチを **“OFF”“停止”** など停止の位置にします。

スタンダード／
ティラータイプ：
エンジンスイッチは作業機側に装備されています。

定期点検を行いましょう

お買いあげいただきました Honda エンジンをいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

定期点検整備項目

点検項目 ＼ 点検時期（3）		作業前点検	1ヵ月目 または 初回 10 時間 運転目	3ヵ月毎 または 25 時間 運転毎	6ヵ月毎 または 50 時間 運転毎	1 年毎 または 100 時間 運転毎	2 年毎 または 300 時間 運転毎
エンジンオイル	点検	○					
	交換		○		○		
エアクリーナー	点検	○					
	清掃			○（1）			
	交換					○（＊）	
点火プラグ	点検、調整					○	
	交換						○
タイミングベルト	点検	300 時間運転毎（2）（5）					
冷却フィン	点検、清掃				○		
クラッチシュー	点検				○（2）		
各部締付け	点検	○					
アイドルスピード	点検、調整					○（2）	
吸入、排気弁のすき間	点検、調整					○（2）	
燃焼室	清掃	300 時間運転毎（2）（4）					
燃料フィルター	清掃					○	
燃料タンク	清掃					○	
燃料チューブ	点検	2 年毎（必要なら交換）（2）					
オイルチューブ	点検	2 年毎（必要なら交換）（2）					

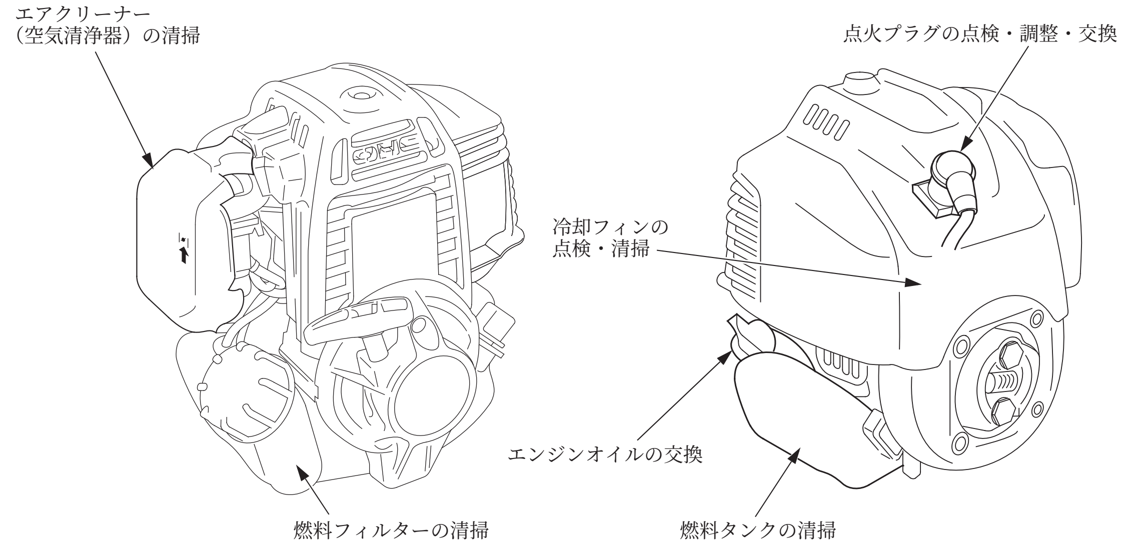
（＊）紙製タイプのエアクリーナーのみ交換してください。
（1）ほこりの多い場所で使用した場合、エアクリーナーの清掃は 10 時間運転毎または 1 日 1 回行ってください。
（2）これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。
（3）点検時期は表示の期間毎または時間運転毎のどちらか早い方で実施してください。
（4）表示時間を経過後すみやかに実施してください。
（5）ベルトに亀裂、異常摩耗が入っていない事を確認し、異常がある場合は交換してください。

点検・整備のしかた

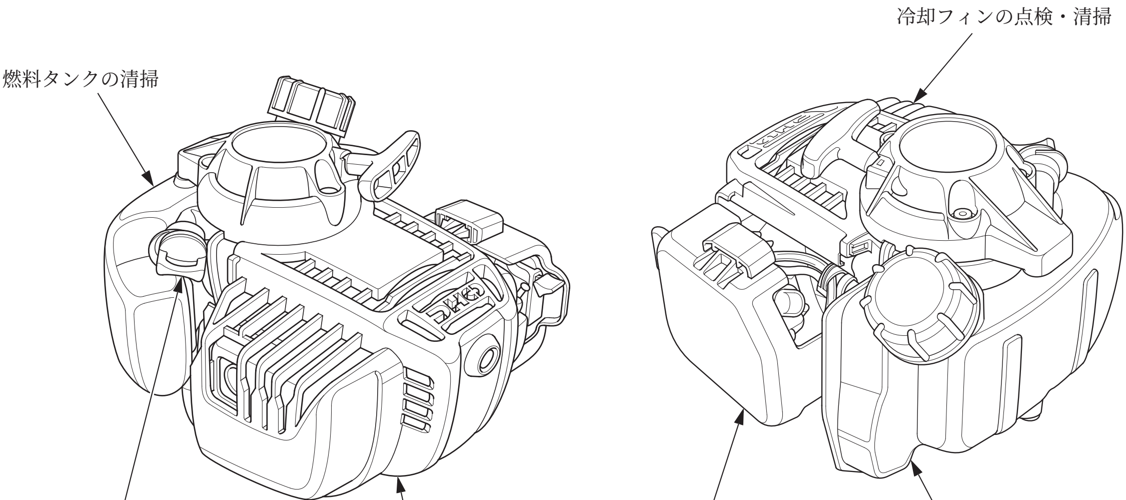
⚠警告

- **点検・整備は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外してください。**
- **排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。**
- **トップカバーを外した状態で始動グリップを引いたり、エンジンを始動しないでください。高温部および回転部が露出するので、思わぬ事故の原因となります。**

スタンダード／ポンプタイプ：



ティラータイプ：



エンジンオイルの交換

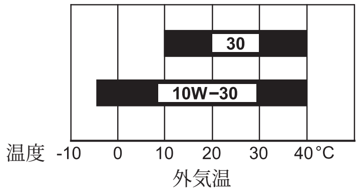
エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠注意

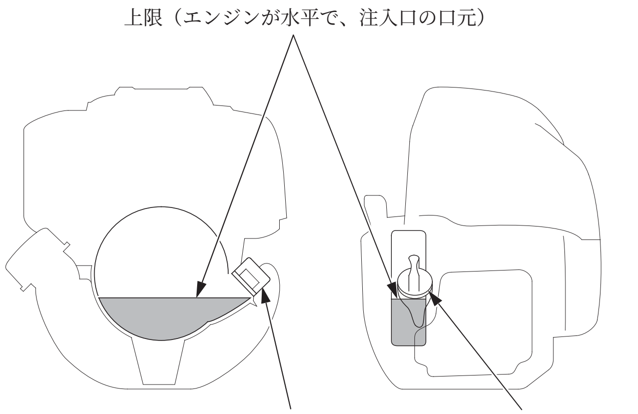
エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをするおそれがあります。

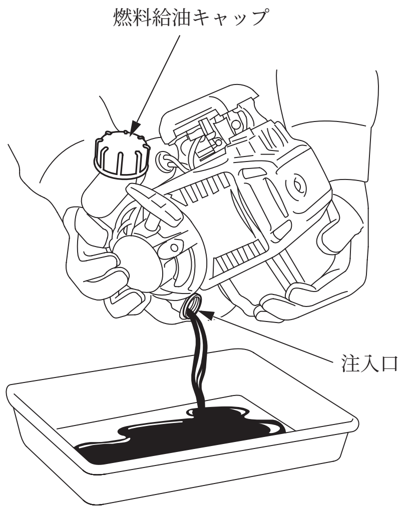
《推奨オイル》 Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE10W-30）
または API 分類 SE 級以上の SAE10W-30 オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



《交換》
1. 燃料給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. オイル給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、オイルを抜きます。オイルは、容器に受けてください。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
   ・ スタンダード／ポンプタイプは、エンジンを水平にします。
   ・ ティラータイプは、エンジンを下図のように立てます。
   オイル容量が小さいため、少量に分けて注入してください。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。





取扱いのポイント

- **交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。**
- **オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**
- **オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。**

エアクリーナー（空気清浄器：ウレタンタイプ）の清掃

エアクリーナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

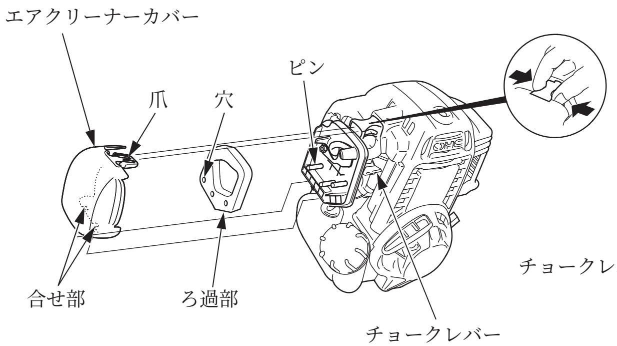
⚠警告

- **洗い油は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。**
- **清掃は換気の良い場所で行ってください。**

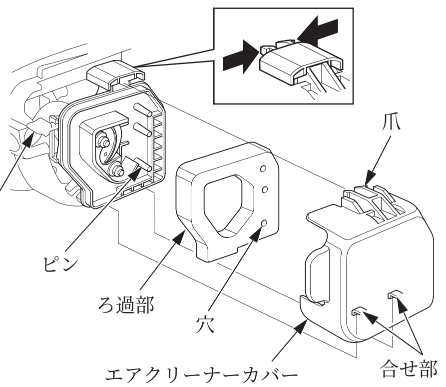
《清掃》

1. チョークレバーを上げます。
2. エアクリーナーカバーを取外し、ろ過部（ウレタン）を取外します。
   エアクリーナーカバーの取外しは、爪の両端をつまみ、手前に倒し上部を外した後、下部の合せ部を離して行います。
3. ろ過部を洗い油または水で薄めた中性洗剤で洗い、よく絞ってから乾かします。
4. ろ過部を新しいエンジンオイルに浸した後、固く絞ります。
5. エアクリーナーカバーおよびケースの内側に付着している汚れをウエス等で取り除きます。この時キャブレターにゴミ等が入らないように注意してください。
6. ろ過部、エアクリーナーカバーを取付けます。ろ過部の取付けは、エアクリーナーケースのピンがろ過部の穴に挿入されるように組付けます。
   エアクリーナーカバーの取付けは、下部の 2 か所の合せ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。

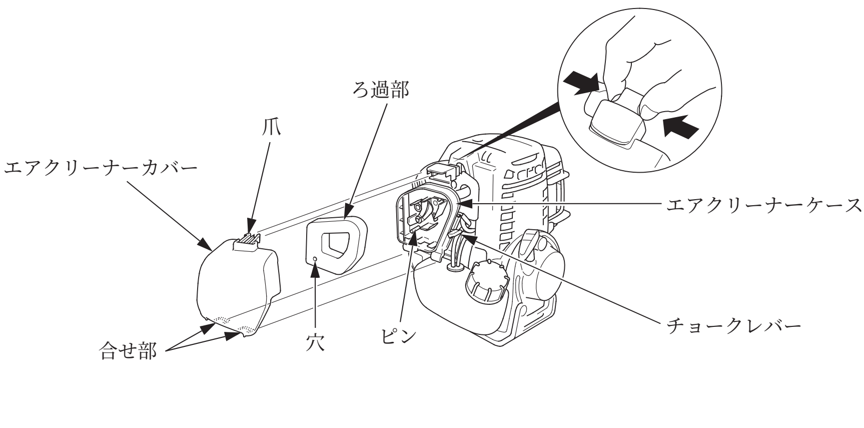
GX25　スタンダード／ポンプタイプ：



GX25　ティラータイプ：

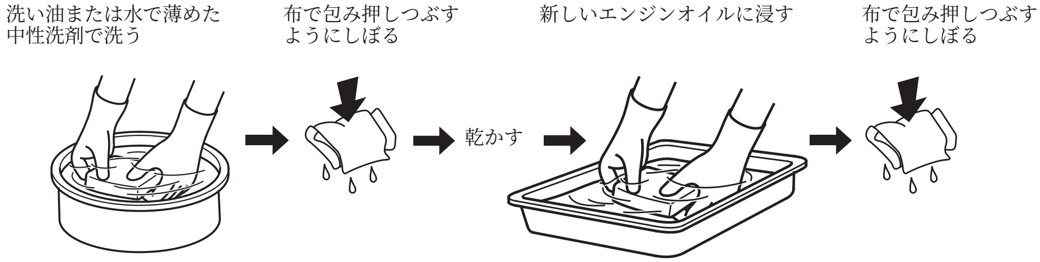


GX35　スタンダードタイプ：



点検・整備のしかた

《ろ過部の洗浄》



取扱いのポイント

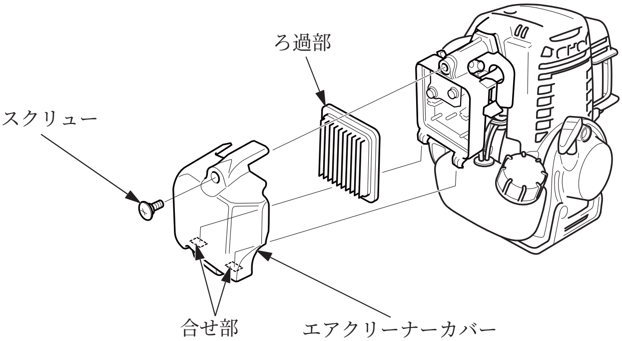
- **エアクリーナーを外した状態でエンジンを運転しないでください。エンジンが早く摩耗する原因になります。**
- **ろ過部にオイルをつけすぎないように注意してください。**

エアクリーナー（空気清浄器：紙製タイプ）の清掃

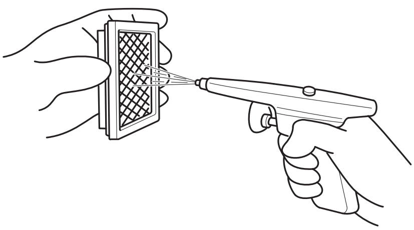
エアクリーナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

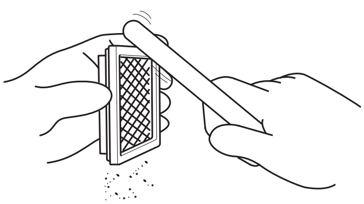
《清掃》

1. エアクリーナーカバーを取外し、ろ過部（紙製）を取外します。
   エアクリーナーカバーの取外しは、スクリューを外した後、下部の合せ部を離して行います。



2. ろ過部 (紙製) の内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落としてください。
   圧縮空気は 200 kPa (2.0 kgf/cm^2) 以下で吹きつけてください。





3. エアクリーナーカバーおよびケースの内側に付着している汚れをウエス等で取り除きます。この時キャブレターにゴミ等が入らないように注意してください。
4. ろ過部、エアクリーナーカバーを取付けます。
   エアクリーナーカバーの取付けは、下部の 2 か所の合せ部を組付け後、スクリューを確実に締付けて行います。

取扱いのポイント

エアクリーナーを外した状態でエンジンを運転しないでください。エンジンが早く摩耗する原因になります。

点火プラグの点検・調整・交換

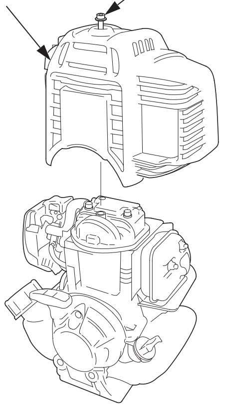
電極が汚れていたり、プラグすきまが不適当な場合、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後のマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。

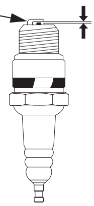
《清掃》
1. 六角レンチで 5 mm ソケットボルトを十分にゆるめ、トップカバーを取外します。
2. 点火プラグキャップを外して、プラグレンチで点火プラグを取外します。
3. 汚れている場合はワイヤーブラシ等で側方電極部を清掃してください。

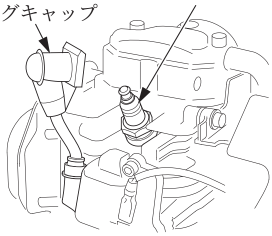
※ プラグレンチ、ワイヤーブラシは別売りです。



《点検・調整》
・プラグすきまを点検し、側方電極を曲げてプラグすきまを下記寸法に調整します。
　プラグすきま：0.6ー 0.7 mm
　取付けははじめに指で軽くねじ込み、次にプラグレンチ、プラグレンチハンドルで確実に締付けます。プラグキャップを確実に取付けます。

《指定プラグ》
CM5H(NGK)
CMR5H(NGK)



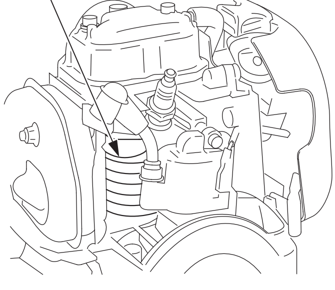


取扱いのポイント

故障の原因となるので指定以外のプラグを使用しないでください。プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、はじめに指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
点検調整後はプラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

冷却フィンの点検・清掃

《点検・清掃》
1. 六角レンチで 5 mm ソケットボルトを十分にゆるめ、トップカバーを取外します。
2. 冷却フィンを目視で点検し、草、芝、泥などによる詰まりがないことを確認します。
　詰まりがある場合は清掃してください。



燃料フィルター・燃料タンクの清掃

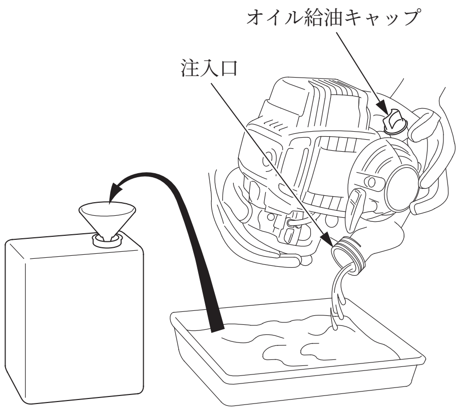
燃料フィルターが目詰まりしたり、燃料タンク内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

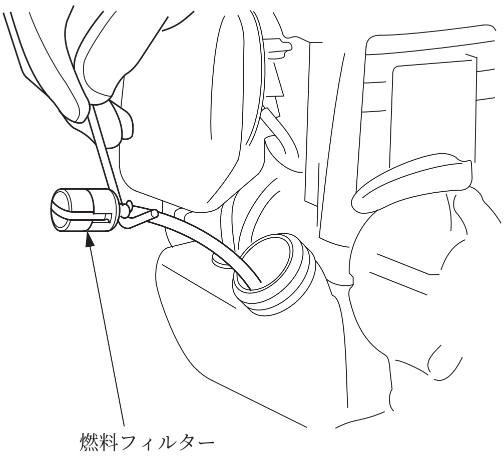
⚠警告

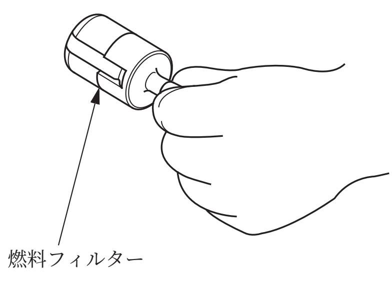
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

《清掃》

1. オイル給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. 燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、ガソリンを抜きます。ガソリンは、容器に受けてください。
3. 燃料フィルターを針金などを使い、注入口から引き出します。
4. 燃料フィルターを洗い油で洗って、燃料フィルター表面の汚れを落とします。
   燃料フィルターの汚れが著しい場合は、交換してください。
5. 燃料タンク内部を洗い油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取り除きます。
6. 燃料タンクから洗い油を抜き、燃料タンク内を十分に乾燥させます。
7. 燃料フィルターを燃料タンク内に戻し、燃料給油キャップを確実に締付けます。







故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

エンジンがかかりにくいときは

運転後、エンジンを止めてしばらくたった後に再始動しようとすると、燃焼室内の混合気が濃くなり、エンジンがかかりにくくなることがあります。
次の 1 ～ 4 の操作を行って濃い混合気を排出してください。

スタンダード／ティラータイプ：
1. 作業機側のエンジンスイッチを“ **停止** ”の位置にします。
2. チョークレバーを下げた位置にしてください。
3. 作業機側のエンジン回転調整レバーを“ **高速** ”の位置にします。
4. 始動グリップを 3 ～ 5 回引きます。

ポンプタイプ：
1. エンジンスイッチを“ **停止 ”の位置にします。**
2. チョークレバーを下げた位置にしてください。
3. エンジン回転調整レバーを“ **高速** ”の位置にします。
4. 始動グリップを 3 ～ 5 回引きます。

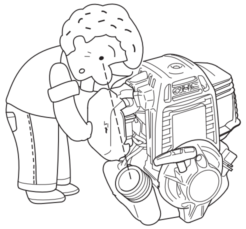
⚠注意

エンジンスイッチは必ず“ 停止 ”の位置にしてください。
“ 運転 ”の位置で行うと、エンジンが始動した場合、作業機が動き出しけがをするおそれがあります。

・「エンジンのかけかた」（9 頁）の手順に従って、エンジンを始動してください。
　・ チョークレバーは下げた状態で始動してください。

エンジンがかからないとき

(1) ガソリンは十分に入っていますか？

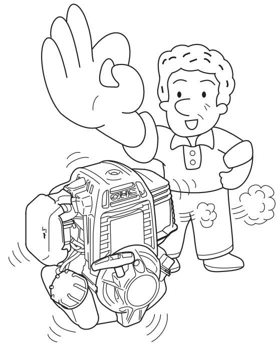


● 入っていない場合は補給してください。

(2) プライミングポンプを押すと、燃料戻しチューブの内側でガソリンが移動しますか？



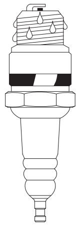
● ガソリンが移動しない場合は、燃料系統の故障です。



OK ↓　　NO ↘

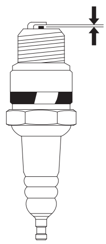
(3) 点火プラグがぬれたり、汚れたりしてませんか？





● ぬれているときや汚れているときは布きれなどでふいてください。

(4) 点火プラグのすきまは正しいですか？
・ プラグすきま：0.6－ 0.7 mm



● すきまが正しくないときは調整してください。

● 点火プラグの清掃や、すきま調整をしてもエンジンがかからない場合は、新しいプラグに交換してください。

(5) 点火プラグを取付けて再度始動してください。

NO →

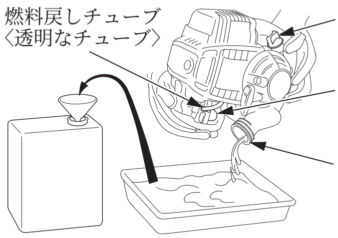


・お買いあげの販売店にお申しつけください。

長期間使用しないときの手入れ

⚠警告

- **ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。**
- **ガソリンを抜くときは**
  - **エンジンを停止してください。**
  - **火気を近づけないでください。**
  - **換気の良い場所で行ってください。**
  - **ガソリンはこぼさないように抜いてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。**



- 始動グリップを引き、重くなったところで止めます。
- 燃料タンク、気化器内のガソリンを抜きます。
  1. オイル給油キャップが締付けられていることを確認します。
  2. 燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、ガソリンを抜きます。ガソリンは、容器に受けてください。
  3. 燃料戻しチューブ内のガソリンがなくなるまで、プライミングポンプを押します。
  4. 再度、本機を注入口側に傾け、ガソリンを抜きます。
  5. 燃料給油キャップを確実に締付けます。
- エンジンオイルを交換します。（13 頁参照）
- エアクリーナーを清掃します。（14 ～ 16 頁参照）
- ビニール等でカバーをします。
- 湿気、ホコリの少ない所に保管してください。

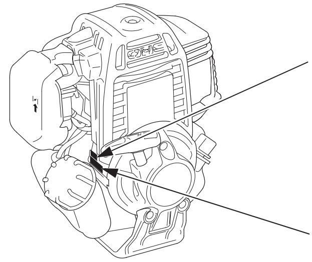
取扱いのポイント

次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。

取扱いのポイント

- **ガソリンは自然に劣化しますので、必ず抜いてください。**
- **2 週間以上使用しない場合は、燃料タンク、気化器内のガソリンを抜いてください。**
- **オイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換してください。**
  （6 か月に 1 回新しいオイルと交換）

タイプ、エンジン号機の表示位置



主要諸元

名称	GX25	
タイプ	ベーシックタイプ	
型式	GCALT	
全長	198 mm	
全幅	221 mm	
全高	230 mm	
乾燥質量（重量）	2.90 kg	
形式	空冷 4 ストローク (OHC)、立型単気筒	
総排気量	25.0 cm^3	
最大出力／回転速度（SAE J1349 に準拠*）	0.72 kW (1.0 PS)/7,000 rpm	
最大トルク／回転速度（SAE J1349 に準拠*）	1.0 N・m (0.10 kgf・m)/5,000 rpm	
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン	
燃料タンク容量	スタンダード／ポンプタイプ	0.54 L
	ティラータイプ	0.53 L
エンジンオイル量	0.08 L	
点火方式	トランジスター式マグネトー点火	
始動方式	リコイルスターター	

＊ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して 7,000 rpm（最大出力）、5,000 rpm（最大トルク）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

名称	GX35	
タイプ	ベーシックタイプ	
型式	GCAMT	
全長	205 mm	
全幅	234 mm	
全高	240 mm	
乾燥質量（重量）	3.46 kg	
形式	空冷 4 ストローク (OHC)、立型単気筒	
総排気量	35.8 cm^3	
最大出力／回転速度（SAE J1349 に準拠*）	1.0 kW (1.4 PS)/7,000 rpm	
最大トルク／回転速度（SAE J1349 に準拠*）	1.6 N・m (0.16 kgf・m)/5,500 rpm	
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン	
燃料タンク容量	スタンダード／ポンプタイプ	0.64 L
	ティラータイプ	0.63 L
エンジンオイル量	0.10 L	
点火方式	トランジスター式マグネトー点火	
始動方式	リコイルスターター	

＊ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して 7,000 rpm（最大出力）、5,500 rpm（最大トルク）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

※ 諸元は予告なく変更することがあります。

HONDA
The Power of Dreams

Honda 汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店
TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120 － 112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00 ～ 12:00　13:00 ～ 17:00
〒 351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda 汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速
にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、
ご相談ください。

(1) 製品名、タイプ名
(2) ご購入年月日
(3) 販売店名

GX25T/GX35T

Ⓢ
30Z3E603
00X30-Z3E-6030